

別記様式 1

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第3回「(仮称)子ども図書館」基本構想策定市民懇話会
担当部課名	教育委員会事務局教育部 中央図書館
会議の開催日時	平成29年2月7日(火)午後1時30分～3時25分
会議の開催場所	磐田市立豊田図書館 2階研修室
出席者(職・氏名)	<p>委員：鈴木正善、山中光枝、米田俊彦、若井まち子 村松真利江、林 文香、鈴井ひろみ</p> <p>事務局等</p> <p>教育委員会：村松啓至教育長、秋野雅彦部長</p> <p>中央図書館：伊藤八重子中央図書館長、伊東直久主幹 永田幸義 豊田図書館長、横井暁子主任</p> <p>こども部 : 水野義徳部長</p> <p>子育て支援課：高比良紀恵子 子育て支援課長</p> <p>伊藤修一子育て支援G長、大石 優 主事</p> <p>建築住宅課：渥美英之企画営繕G長、杉浦 輝 技師</p> <p>(株)都市環境設計：設計部企画課課長 田戸義彦(敬称略)</p>
議 題	<p>1 設備面について(ゾーニングを含む)</p> <p>2 ソフト事業や運営について</p> <p>3 その他</p>
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図面(ゾーニング案2枚) ・ 工程案 ・ ソフト事業概要書

概

要

1 設備面について（ゾーニング含む）

事務局から説明

- ・書架配置や利活用、シアター、ゾーニングの考え方
- ・子ども連れ利用者への配慮 等

（委員からの意見）

書架の高さは低くなるものの、サービスカウンターから見通しが良いとは言えない。子どもへの見守りが行き届くか心配がある。

（事務局）

できるだけ死角を作らない観点から心配されると思うが、書架全体が低いので大丈夫だと考える。現状の家具を再利用するため制限も多い。

（委員からの意見）

シアターは遮音に配慮すると高い壁が必要になり、見通しの点で痛し痒しの部分がある。

（事務局）

シアター壁面を書架にしたいと考えているため、死角になる部分があり、問題があれば何らかの手立てを検討する必要がある。シアターの舞台部分はどうしても死角になる。

（委員からの意見）

学校と連携し、子どもたちが多くの本との出会うことや、学校外で調べ学習ができるよう取り組んで欲しい。合わせて洋式トイレを増やしてほしい。幼稚園にも図書館訪問を勧めたい。

シアターは、車いす利用に支障がないか。

（事務局）

シアターには、段差を設けず車いすでも利用できる予定です。

（委員からの意見）

施設周囲には、新造形創造館、アミューズ豊田に小ホールや体育施設、市民文化会館の建設計画があり、この地が磐田市の複合的な文化ゾーンとなる。

A案は出入り口が1箇所で閉鎖的に感じる。各施設の複合的な動線を考えると、中のゾーンはA案と出入り口を増やすC案の折衷案とすれば、開かれた図書館として大いに発揮できるのではないか。

(事務局)

ホールと図書館の複合施設の例はあるが、公共施設の設計の観点から、文化ホールは一気に人が集まり一気に駐車場から出ていく性質を持ち、ホールに来たついでに図書館利用は少ない。建物や駐車場の配置によっては南側の出入り口が必要ではないかと内部からも意見が出たが、頻繁な人の流れは少ないと考えることや、出入り口が増えることで管理が難しくなることから、北側一か所とした。

(委員からの意見)

収容人数はどのように考えているのか？学習机は対面だと利用しにくく、多くは座れないのでは？

シアターにはどのくらいの人数が入れるのか？

(事務局)

現在の机を活用するが、仕切りを設けた個別席にする考えです。

(委員からの意見)

その仕切りは動かせる仕様であると良い。1人で大きく使う必要がある場合や、2～3人で使いたいときに対応できるように。

(事務局)

方法を検討します。子どもシアターの収容人数は50人位。冬場でも冷房が必要になる可能性もあり、全体

の空調とは別に個別の空調機を予定しています。

また、新聞・雑誌を読むソファが少ないので、工夫できればと考えている。学級招待の場合、児童コーナーに2クラス以上が入れる。あそびのまは、20～30人位と考えています。

(委員からの意見)

シアターにはスタッフ専用の出入り口が欲しい。子どもたちが魔法の世界に入っていくことやワクワクするためには、語り手がどこから現れるか分からないことが必要。中央図書館のおはなしの部屋もそのように造られている。ちょっとした工夫で子どもたちがワクワクし、また行ってみたいと感じると思う。

(事務局)

ぜひ検討してみたい。

(委員からの意見)

シアターは50人位入るとのことだが、小さく区切って使えるのか？

(事務局)

中央天井にトップライトがあるためできない。カーテンで仕切るとは可能だが、それほど広い空間ではない。

2. ソフト・運営面の考え方

(事務局から説明)

図書館と子育て関連のソフト事業案を説明

- ・シアターの活用、ボランティアとの協働、学校連携等
- ・子育て関連専門職員の活動、既存の子育て相談員事業の拠点移転(豊田支所から図書館)、入園や就労支援等

(委員からの意見)

それぞれのソフトの重なりが見えない。子育て相談

員をここに配置するとのことだが、この事業の存在が保護者に伝わるのはいつか？

(事務局からの説明)

子育て相談員のサービス内容を補足説明します。
出産後 120 日までの乳児のいる家庭を訪問し、赤ちゃんの入浴の手伝いや、受診時の同行、保護者が家事をする際の子どもの相手など、30 時間を上限に無償で支援する。母子手帳の交付のとき事業内容を知らせていきます。

(委員からの意見)

母子手帳交付時だけでは理解されにくいのではないかと、図書館に繋げるとのことだが、イメージができない。

(事務局)

子育て相談員の拠点が移転してくることで、すぐに相談に直結することは難しいと考えるが、来館者の口伝えで情報が広がることや、フロアサービスの充実の面で期待できると考えています。

(委員の意見)

職員がどのセクションの仕事をする人か、利用者側からは分らない。図書館司書と子育て関連の専門職が事前に学習会をするなど互いの分野の理解が必要。
ソフト事業の考え方も別々のものが出されたとしか感じられない。

(事務局)

相互に研修し職員全員で暖かな雰囲気や相談しやすい環境づくりに取組み、ソフト事業に繋げて行きたい。

(委員の意見)

図書館職員が不足がちな中、相談員がフロアに出る方針には安心するが、子育て関連の職員が開館後の運

常に即座に対応できるのか。

(事務局)

子育て関連の専門職員は工事期間中から準備を進め、早い段階で内定し、開館準備と一緒に進められるようにしたい。子育て相談員だけでなく、保健師や保育士、ソーシャルワーカーもフロアに出て、利用者が相談してみたいと思う関係性が築けるよう、コミュニケーションをとっていきたい。

(委員の意見)

子育て相談員の配置は期待ができる。

地域の民生委員の意見で、豊田図書館は静かすぎるという声もあるが、多くはゆったりとして好きだという意見。市は子育てを支援してくれているが、就学児童までは届かないと感ずる。図書館が温かく見守って欲しい。

子育て相談員の働き方や支援センターとの関係はどのように変化するのか。

(事務局)

子育て相談員は、これまでの業務を維持した上で豊田図書館に居る日も作りたい。サービス利用者との関係性を保つことで、図書館に足を運び相談する機会が増えることを期待する。

支援施設ごとのサービス内容や役割は、整理する必要があり、今後検討していきたい。

(委員からの意見)

今回の計画が子育て支援センターの現場に知らされていないようだが、それはおかしいと考える。

(事務局)

サービス内容や役割を整理する必要はあるが、直ちに何かをやめるのではない。支援センターに寄せられ

	<p>る相談件数が増えている現状から、全てを支援センターで受け入れるのではなく、整理の必要性がある。</p> <p>（仮称）子ども図書館が出来た後においても、相談業務の一元化ができるものではない。棲み分けについては支援センター職員の声も聞きながら検討したい。</p> <p>（委員の意見）</p> <p>相談室を備え相談に応ずるとのことだが、支援センターへ繋げることが使命と読み取った。図書館が元々持っている機能を活かし、繋ぐということで良いのではないかと考える。</p> <p>（事務局）</p> <p>図書館は、もともと子育て支援機能が備わっていますが、現在は資料を通した支援に留まっています。より積極的な支援に進めるのがこの計画の原点です。</p> <p>事業名（仮称）子ども図書館は、利用者の誤解を招きやすいので、適したネーミングも検討して行きます。</p> <p>その他</p> <p>（事務局から説明）</p> <p>今後の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本構想の公表見込み ・設計と施工の予定
備 考	